

一 次の――線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを書きなさい。

- ① 牧場をイトナむ。
- ② テンラン会を見に行く。
- ③ ホウフな経験を生かす。
- ④ 日米のシュノウが会談する。
- ⑤ おじの家をホウモンする。
- ⑥ 臨時の窓口を設ける。
- ⑦ 春になって寒さが和らぐ。
- ⑧ 計画の意図を知らせる。
- ⑨ 油断は禁物だ。
- ⑩ 忘れ物の有無を調べる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東京の郊外にあるテルの学校では、生徒の半数以上が電車通学やバス通学であった。バスの場合はそれほどなかったが、テルには薄水色の電車の定期がなんともうらやましくならなかった。紐や鎖のついた定期券をポケットからひき出し、なに気ない顔つきで改札口を通っていく友人たちの姿がひどく大人びて見えたのだ。電車通学もできないのに、なぜテストなんかを受けてあの学校にはいらなければいけなかったのか、とテルは母をなじった。あの学校に通うためにわざわざ近くのマンションに引っ越して来る人もいるというのにね、と母はとりあわなかった。

不幸にも家が学校に近かったので二年生になっても一人で電車に乗ったことのなかったテルに、願ってもないチャンスが訪れた。電車で五つほど離れた駅から通っている吉田クンから、火曜日の午後の誕生日の会に招かれたのだ。メンバーは少数で、電車通学の友人ばかりだった。火曜日は四時間だから、うちへ帰ってランドセルを置いたらすぐ行くよ、とテルは母親の許しも得ずに吉田クンに答えた。こうして、テルのささやかな一人旅は準備された。

母親はまるで息子を外国に手離すかのように心配した。吉田クンが待っているはずの向こうの駅の改札口まで送ってやろう、と何度も何度もテルに言った。そのたびに、大丈夫だよ、一人で行けるよ、とテルは次第に大きくなる声で答えた。黒い革の小さな財布に白いコインと赤いコインを何枚かもらっている、それをズボンのポケットの奥深く押しこんだ。新しいハンカチとチリ紙を渡されて、テルはたった一人の短い旅に出た。家の前の道が、学校に通うときより白く広く感じられた。

「キップを落としちゃだめですよ」

(注意) 字数制限のある問題は、句読点や記号なども、一字として数えます。

「改札口をはいたら、すぐお財布にしまいなさいよ」
「なくしたら、もう駅から出られなくなるんだからね」
門の前に立った母親が伸び上がっては声をかけ続けた。ふり返って手でこたえながら、自分がいま、会社に出かけていく父親になったような気分をテルは味わった。母親に見えないように彼は揃えた二本の指を唇にそっともっていく。すると指の間に透명한煙草が生まれ、テルは電柱の脇を通り過ぎるときに空気の色をした煙を吐いてみた。

行きはなにこともなかった。というより、乗りこんだ電車の中で同じ吉田クンのうちを訪れる友だちにはったり会ってしまったので、テルの一人旅は家から駅のプラットホームまでしか続かなかったわけだ。テルにはそれが残念だった。電車に一人で乗りたいばかりに、彼は早く帰るように言われているからと吉田クンに嘘をついて、友だちを残したまま一足先に家に向かった。吉田クンの母親が、一人で大丈夫かしらと心配するの、はくはどこへでも一人で行っているのですから、とテルは答えた。

行きとは逆のコースを辿って駅についた。自動販売機で子供のキップを買って改札口を通った。ピカピカ光る手摺につかまって階段をのぼった。ホームに降りるとすぐに下り電車が来た。あまり待つ時間がなくて物足りなかった。電車はすいていた。大きくあけた窓から塊になった風が飛びこんでテルを椅子の上に押し倒そうとした。負けるものか、と彼は風に顔を押しつけて行った。すると、電車は飛行機になって線路すれすれの低空を飛行しはじめた。こうして、人気の少ない車両の中で③②①の単独行の楽しみをテルは十分に満喫することができた。もうどこまでだって一人で行ける、とテルは思った。降りる駅のたちまち近づいたの

が物足りないほどだった。これではあまりにすぐ帰れてしまう……。

ところが、そうはならなかった。テルが異変に気づいたのは、階段を降りて改札口の前まで来たときだった。囲いの中にこちらを向いて駅員が立っていた。彼がなにかを要求しているのがテルにはわかった。駅員が広げた両手の上に、人々は次々となにかを渡しては狭い通り道をすり抜けた。テルはギョッとしてその場に足が凍りついた。どうしていいかわからなかった。誰もが当たり前前の顔をしてその行事をくり返していた。テルにはそれができなかった。ポケットには財布しかはいっていなかった。財布にはお金しかはいっていなかった。なにもないポケットの底はふわふわと生温かいだけだった。

そのとき、駅員が銀色の鍔で改札口の囲いを激しく叩いた。

「もしもし、お客さん、秋葉原からの方！」

こたえるものがないと知ると駅員は急に声を張り上げた。改札口から遠ざかる人の動きに小さなざわめきが生まれた。次の瞬間、駅員の身体は軽々と改札口の囲いを跳び越えて外に走った。人々のざわめきが止まって音が消え、その中を駆け抜けようとした一人の男が追ってきた駅員に手首をとらえられた。大声のやりとりが二つ三つとびかい、それから急におとなしくなってしまうた黒い服の男の腕をとって駅員はもどってきた。男の顔は奇妙な赤い色に染まっていた。

「逃げないから離せよ。」

「あんたは知ってたわけでしょう。」

「だからぼくは……」

激しく身体が揉み合うと、男は腕を振りもぎって改札口の前からもう一度逃げようとした。今度は駅員の顔が真っ赤になり、男の顔色は青く変わっていた。男が駅員に強くひかれて事務室の扉に消えた。

キップを渡さないで出ようとしたんだ、とテルは思った。まるで泥棒

プラットホームの西の端まで白線のタイルを踏んで数えてみる。階段の下から百四つ目にあたる最後のタイルまでは完全に駅の中だ。いや、黄色いペンキで縁取られた木の通路が伸びて行く線路のあそこまではまだ駅に含まれるのかもしれない。

そう考えているとテルにはふと思ひ出されることがある。いつか、駅前の信号の横に立つポストに手紙を入れてから、なにげなく門の開いていた道にふらふらとはいりこんでみたことがある。中から青い服を着て黄色いヘルメットをかぶった男が現われて、何の用か、とたずねた。黙って首を横にふると、ここは駅の構内なのだからやたらにはいいけないのだ、とテルを追いたてた。「コーナイ」という言葉は、正確にはわからなかったが、それでも「領地」の意味らしい、という想像までは彼にもついていた。だから、反対側から見れば、あの木の扉のところまでは行っても大丈夫なわけだ。

プラットホームには売店がある。あそこでチューインガムを売っているおばさんはキップを持っているのだろうか。電車から投げ出された新聞らしい茶色の紙の包みを取りに来る青いジャンパーを着た人たちもやはりみんなキップを持っているのだろうか。疑問はいくらでも湧いて出たが、テルにわかるのはただ、キップをなくした以上自分はどうこの駅から外へは出られないのだ、ということだけだった。改札口の駅員の赤い顔が目について離れない。

夕暮れが近づいて電車に乗り降りする人のふえたのにテルは気がついた。うっかり学校の先生などにみつかつては大変だという新しい心配に彼は向き合ねばならなかった。さらに遅くなれば会社から帰ってくる父親に出会わないとも限らない。その前に、顔色を変えた母親が警察の人と一緒にさがしに来るかもしれない。隠れよう——テルはそう決心した。⑤ どうせここからもう出られないのなら、この中で一人でしつかり暮

がつかまるときみたいだ、とテルは怯えた。そして突然、⑤ 自分になぜここに立っているかに彼は気がついた。男を事務室に連れていったあと、改札口は少しの間無人の状態になっていた。いま全力で走り抜ければ逃げられるかもしれない、という考えがちらとテルの小さな頭をかすめた。人のいない改札口の囲いの中から、赤い顔をした駅員が何人も何人も湧き出している。襲いかかつてきそうな恐れが、たちまちテルをおさえつけた。人のいる改札口より、人影のないまま口を開いた改札口の方がよけいに気味悪く感じられた。逃げなくては、とテルは思った。彼は一目散に走った。改札口とは逆に階段を駆け上り、いつかホームに立って苦しい息を吐いていた。家を出るときの母親の言葉がよみがえった。「キップを落としてちゃだめですよ」⑥ 「なくしたら、もう駅から出られなくなるんだからね」

ぼくはもう、ここから出られなくなったのかもしれない、とテルは考えた。出ようとすれば、必ずあの男のように改札口でつかまってしまいうに違いない。駅から出られなくなったときの逃げ方について、母親はなにも彼に教えてはくれなかった。

ホームにいる間はまだ安全なのだろうか——。両親と出かけたとき、電車の中でキップを見せてほしい、と駅員がまわって来たことがあった。ホームではそんなことをしている人を見たことがない。平気な顔をして立っていれば、誰がキップを持ち、誰が持っていないかなどわかりはしないだろう。そう気がつく、と、テルは少し落ちて着いて売店のそばの水飲み場で水を飲んだ。ぬるい水がいやな薬品めいた臭いをたてながら細くつまってしまったような咽喉を降りていく。

少しずつ気持ちが平靜を取り戻してくるにつれ、テルの頭は、どうやって危険を逃れるかという受け身のものから、どこまではあ、であるかの限界を確かめようとするものへと関心の方向を切り替えた。長い

らしていかなければならない。

（黒井千次著「子供のいる駅」より）

問 1 ― 線部①「母親の許可しも得ずに吉田クンに答えた」のはなぜですか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母親の許可がないと何もできないことを、友だちに知られるのが恥ずかしかったから。

イ 母親に話すと、吉田クンの誕生日の会に行くことを許してもらえないと思っていたから。

ウ すぐに返事をしないと、一人旅ができるチャンス逃してしまうかもしれないと考えたから。

エ すぐに返事をしないと、せつかく誘ってくれた吉田クンに悪いような気がしたから。

問 2 ― 線部②「電車は飛行機になって線路すれすれの低空を飛行しはじめた」という表現は何を表していますか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 電車の快適さ イ 電車の速さ ウ 電車の不思議さ エ 電車のかつこさ

問 3 ― 線部③「単独行」と同じ意味で使われていることばを、本文中から三字で書きぬきなさい。

問 4 ― 線部④「その行事」とはどのような行事ですか。本文中のことばを使って四〇字以内で答えなさい。

問 5 ― 線部⑤「自分がなぜそこに立っているかに彼は気がついた」とありますが、なぜ改札口の前に立っているのですか。その理由を三〇字以内で答えなさい。

問 6 ― 線部⑥「どうせここからもう出られない」とありますが、キップをなくしても事情を話せば駅から出られるはずなのに、テルがこのように考えてしまった原因として適当なものを次のア～オの中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア せつかく一人旅ができたのに、すぐに帰ってしまうのはもったいないから。

イ 母親が、「キップをなくしたら、駅から出られなくなる」と言っていたから。

ウ キップを渡さないで改札口を出ようとした男が捕まるところを見てしまったから。

エ キップを持たないで駅の構内に入ったときに、追いたてられたことがあるから。

オ 学校の先生や父親に見つからないようにするには、駅の中に隠れるしかないから。

問 7 ― あ ― にあてはまる漢字二字のことばを本文中から書きぬきなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注意) 字数制限のある問題は、句読点や記号なども、一字として数えます。

① 日本は明治維新以来、先行する欧米に追随し、これをマネすることを良しとしてきました。その成果としてめざましい発展を遂げることはできましたが、一方で、独自の文化、文明をつくる創造性を育む努力を怠ったために、これを欠落させたことは否めません。

② 創造力のなさは、失敗に直面したときの対応のまずさにも顕著に現れます。真の創造は、目の前の失敗を認め、これに向き合うことからしか始まりません。にもかかわらず、起きてしまった失敗を直視できず、「思いもよらない事故」「予測できない事故」という言い訳で失敗原因を未知への遭遇にしよう責任逃れを繰り返しては、次の失敗の防止も、失敗を成長・発展の種にすることもできません。

③ I、日本と同じ技術大国であるアメリカはどうでしょう。やはりヨーロッパのマネから発展をスタートさせたアメリカは、日本がバブルに酔い「アメリカを抜いた」と浮かれていた時代にも、日本企業の持っていた品質管理の優秀さに真摯に学んでいました。

④ また、マネから始まって世界の頂点に君臨したときに同じように経験則として学んだ「技術や創造に必ず失敗はつきものである」という知恵を使い、いまでは失敗と真正面から向き合っていくフェイリヤー・アナシリス(失敗分析)という活動をシステムとして取り入れていきます。これは日本では危機管理のひとつの対象としか考えず忌み嫌っているだけの失敗を、企業経営に生かそうという考えのもとに行われているものです。多くの企業でも取り入れ、百人に一人程度の割合で専任スタッフを配して失敗と向き合っているそうで、技術大国として長年トップを走り続けてきた秘密の一端はこんなところにあるのではないかと考えられます。

⑤ 日本とアメリカの差を考える上で、象徴的なこんな話があります。

⑥ 日本列島をすつぱり覆うほどの大規模なハリケーン「フロイド」が全米を襲ったのは、一九九九年九月のことでした。上陸の三日目に大統領の名前で避難勧告が出され、実際に二百万人が家財道具をまとめて逃げ出したのを覚えている方も多いでしょう。家族と荷物を載せた車の長蛇の列がフリーウェイに並ぶ様子は、さながらパニック映画のワンシーンのようでした。

⑦ このときクリントン大統領は、軍の出動や予算権など本来は大統領しか行使できない権限を危機管理担当者にも一時的にあたえたといえます。このイレギュラー措置の理由は、被害を最小限に食い止めるべく迅速な対応ができる体制で危機に臨むためです。

⑧ 日本の場合はどうでしょう。ほぼ同じケースとして考えられる九五五年の阪神・淡路大震災のとき、災害救助に対する自衛隊の現場到着の遅れが問題になりました。これは本来出動を要請すべき自治体と自衛隊の連携の悪さ、さらに、対応の遅れた村山富市元首相に代表される、日本のリーダーの危機管理意識の欠如を象徴する問題として、いまでも語り継がれています。

⑨ しかしクリントン大統領と日本のリーダーの差は、単なるリーダーの器の違いというふうには単純に見ることはできません。異なる対応にそのまま象徴されるのは、日本とアメリカの持つ失敗文化の違いそのものなのです。

⑩ 少なくとも一九八六年のスペースシャトル・チャレンジャー号の爆発以降のアメリカは、失敗を真正面から受け止め、そこから次の失敗の防止策を

考え、発展の種にすることを文化として取り込んできました。日本のように、失敗を単なる恥、減点の対象と考えず、これを肯定して利用する「失敗学」の考えが実現されており、これは大いに見習うべき点です。

⑪ かくいう日本にも、範として見習うべき失敗肯定文化は多々あります。たとえば大手自動車メーカーの本田技研などは、創業者本田宗一郎の理念を踏襲し、社員のアイデア上の失敗に非常に寛容であるという話を聞いたことがあります。

⑫ また、ニーズが多様化した時代の到来を見越して、生き残るべく管理偏重主義の盲信を捨てたり、組織存続の生命線となる創造力を養う教育に心血を注いでいる企業も少なくありません。失敗のマイナス面よりはるかに大きなプラス面のメリット活用を唱える「失敗学」の提唱者としては、これほど喜ばしいことはありません。

⑬ 誰もが考えているように、失敗することは当事者にとっては恥ずかしいことで、起こさなければそれに越したことはありません。しかし、いくら注意しても失敗は必ず起こるし、起こしたことで、次に大きな成功に結びつくことがあることもまた確かです。

⑭ 九十九の失敗に感じる絶望感や怒りよりも、たったひとつの成功から得られる喜びの方がはるかに大きい場合も現実にはあります。確率からすれば少ない方に数えられるそのひとつの重みを大切にすることで、人類が進歩を続けてきたことを私たちはいま一度思い返さなければならぬ時期にさしかかっています。

⑮ さらにいえば、九十九の絶望感しか与えない失敗でも、使い方次第では知識の泉になることは「失敗学」で強調してきました。これに真正面から向き合い、失敗原因の分析に励めば、対象の全体理解にもつながるからです。

⑯ そうなると、次に起こり得る失敗を予測することもできるし、それによって未来に起こるべき失敗を防ぐことができます。その結果、犠牲になつていたかもしれない何万人もの命を救う新たなシステムをつくることができたとしたら、これほど素晴らしい創造行為はないのです。

⑰ 失敗は、新たな創造行為の第一歩にすぎません。その失敗と上手につき合い、うまく活用していくためにも、まずは失敗を恥である、減点の対象であると考えるいまの日本の失敗文化そのものを変えていく必要があります。

⑱ 失敗を恥や減点対象としても、起こった失敗が隠蔽されて、より大きな失敗へと種を成長させるだけです。それよりも、失敗の実態をきちんと見すえながら次の失敗が起こらないシステムをつくるべきです。

⑲ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗

問1 線部①「マネすること」とありますが、日本とアメリカの「マネ」についての説明として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本は欧米のマネをしていただけだが、アメリカはヨーロッパのマネをするだけでなく、日本の優秀な一面も学んでいた。
- イ 日本はアメリカとヨーロッパのマネをして多くを取り入れていたが、アメリカは日本の技術の優れた部分だけを学んでいた。
- ウ 日本は欧米のマネをすることにこだわっていたが、アメリカは日本のマネだけではなく、世界中の国から多くを学んでいた。
- エ 日本はアメリカのマネをすることだけを良しとしてきたが、アメリカはヨーロッパのマネをすることから全てを学んでいた。

問2 線部②「否めません」と同じ意味のことばを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 否定できます。
- イ 推定できます。
- ウ 決定できます。
- エ 肯定できます。

問3 本文中の空らん I には「これとは別の立場や方面から見ると」という意味のことばが入ります。最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ひるがえって
- イ いずれにしても
- ウ とにかくにも
- エ いったいぜんたい

問4 線部③「こんなところ」の指す内容として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の危機管理の一つの対象としてあるところ。
- イ 技術大国として長年トップを走り続けてきた秘密があるところ。
- ウ 失敗を企業経営に生かそうという考えがあるところ。
- エ 百人に一人程度の割合で専任スタッフを配しているところ。

問5 線部④「日本とアメリカの差」について、次の問いに答えなさい。

(1) 日本とアメリカの具体例の説明として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 災害時にアメリカは豊富な予算があつたが日本には全くなかった。
- イ 災害時にアメリカは軍が出動したが日本の自衛隊は出動しなかった。
- ウ 災害時にアメリカは危機管理への対応が早かつたが日本は遅かつた。
- エ 災害時にアメリカは大統領に権限があつたが日本の首相にはなかった。

(2) (1)のような差がでる理由を何であると筆者は考えていますか。本文中から五字から十字以内で書きぬきなさい。

問6 線部⑤「失敗肯定文化」とありますが、次のア～エの中で、「失敗肯定文化」ではないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 失敗から次の失敗の防止策を考えて、成功に結びつけようとする文化。
- イ 同じ失敗をしないように危機管理体制を重視し、失敗防止につなげる文化。

ウ 失敗は必ず起こるものであり、その失敗から大きなプラス面を見だし活用する文化。

エ 失敗分析という活動をシステム化して、失敗を成長につなげようとする文化。

問7 線部⑥「失敗が起こったとき思わず隠してしまうのは、人間の心理として仕方ないことだ」とありますが、そのような人間心理は何によって生じるのですか。三十字以内で答えなさい。

問8 本文の内容として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 失敗は手本とすべきではあるが、許してはならないことである。

イ 失敗は知識の泉ともなるので、振り返る必要はないことである。

ウ 失敗は未来のために必要で、防ごうとしてはならないことである。

エ 失敗は発展のもとにもなり、向き合わなければならないことである。

問9 本文の内容のまとまりで分けるとどうなりますか。もっとも適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。 () 内の数字は段落番号を表します。



受験番号

[illegible]

設	ける	む	イトナ
和	らぐ		テンラン
意図			ホウフ
禁物			シュノウ
有無			ホウモン

1. *What is the main purpose of the study?*
 2. *What are the research objectives?*

問
1

問
2

1

問 3

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	52
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

問
4

[illegible]

問5

[illegible]

問 6

問7

五



問
2

11

35

問
4

55

(1)

(2)

問
6



問 7

[illegible]

84



問 9

